

経営比較分析表（令和6年度決算）

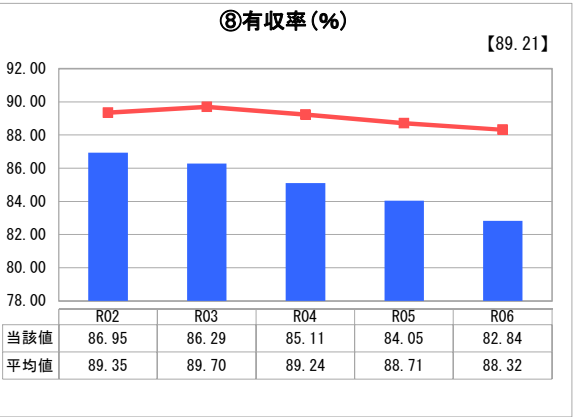
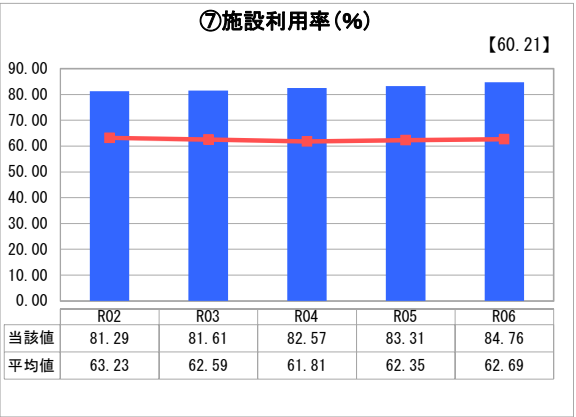
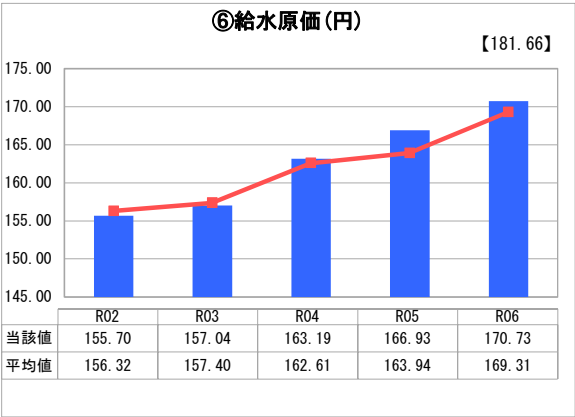
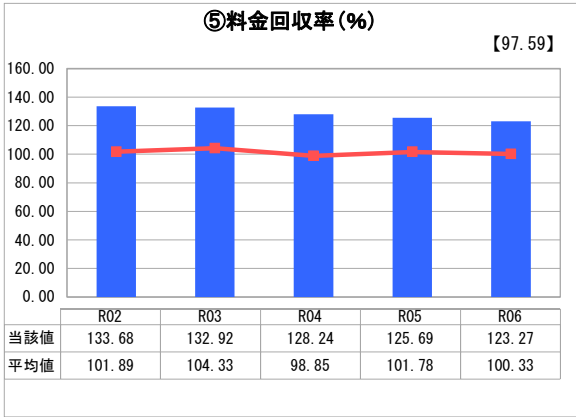
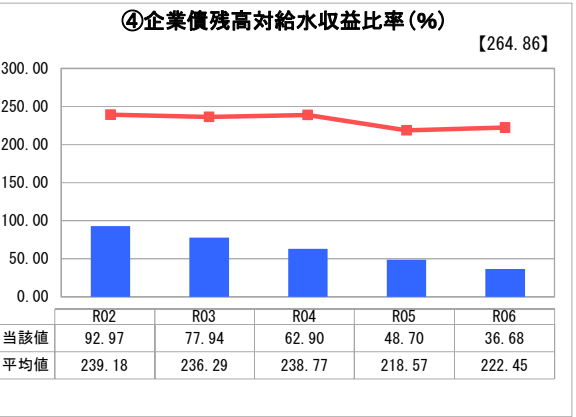
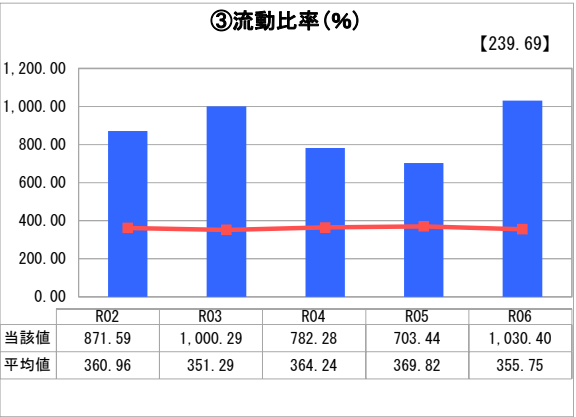
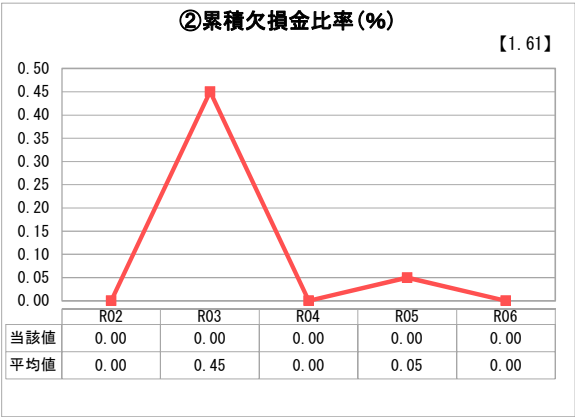
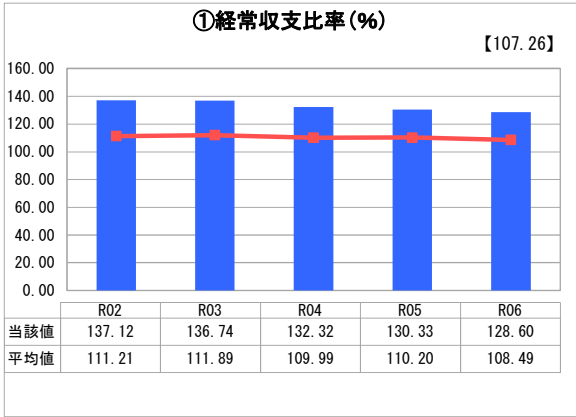
長野県 佐久水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.70	75.97	3,685	

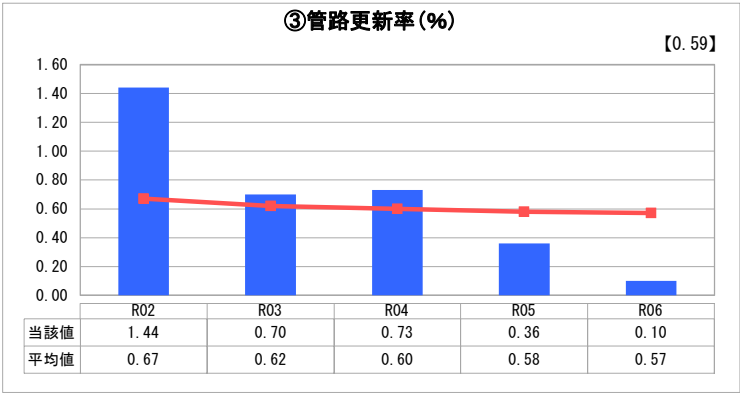
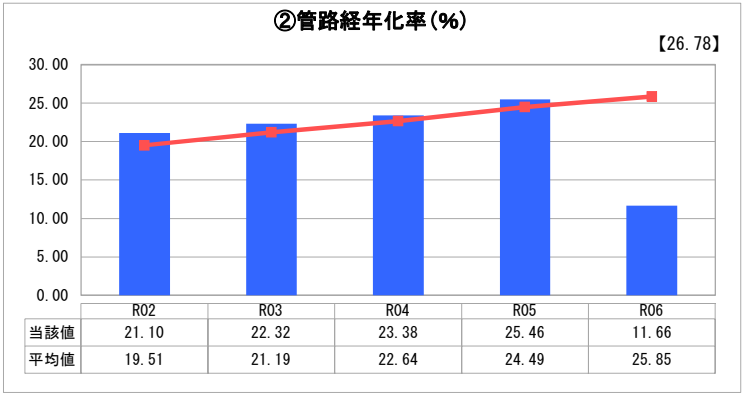
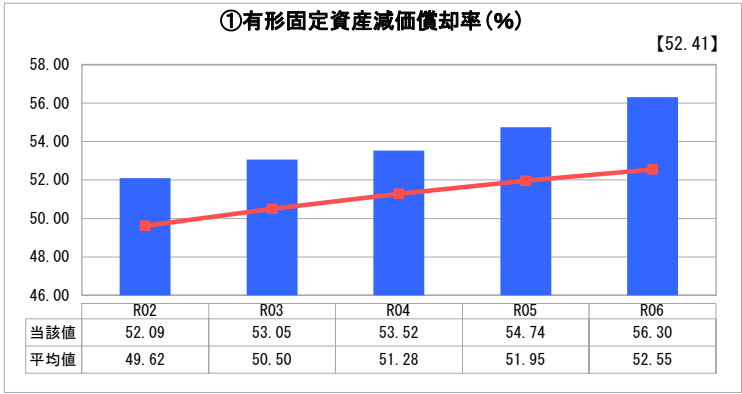
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
116,252	171.45	678.05

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は100%を超え、収益が費用を上回っており、黒字経営と言えます。
- ②累積欠損金比率は0%で、営業活動による損失がないことを示します。
- ③流動比率は高い水準にあり、短期的な支払能力が十分ある状況と言えます。
- ④企業債残高対給水収益比率は、過去に繰上償還をしたことにより低い比率となっており、企業債の新規発行をしていないため、年々減少しています。
- ⑤料金回収率は100%を上回り、水道料金収入で経費が賅えている状態にあります。
- ⑥給水原価は、施設の老朽化に伴う修繕費用の増加及び動力費の増加、施設更新による減価償却費の増加等により、増加しています。
- ⑦施設利用率は類似団体と比較しても高い利用率であり、効率的に施設を利用できていると言えます。
- ⑧有収率は類似団体を下回っており、年々減少傾向にあります。漏水箇所発見のため、令和6年度は、衛星画像解析による漏水調査を行いました。令和7年度は、解析結果を基に実地調査を行う予定です。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体を上回っていることから、更新が必要な水道施設が多いと言えます。施設数が多く、老朽化も進んでいることから、随時、老朽化した施設の更新を進めておりますが、今後も将来の水需要を踏まえながら、計画的な更新に努めてまいります。
- ②管路経年化率は、管路延長の算出方法を見直したことにより減少となりました。
- ③管路更新率は、令和3年度から、老朽施設の更新及び新水源の開発、新配水池の建設、それに伴う管路新設に事業が注力したことにより低下しています。令和7年度も、引き続き新配水池建設等の事業を継続して行うため、類似団体より低い数値となることが予想されますが、一連の開発事業が完了次第、管路の更新に注力してまいります。

全体総括

経営の健全性と効率性については概ね良好な状態にありますが、人口、水需要の減少により今後給水収益の減少が懸念されるなか、老朽施設の更新や耐震化は喫緊の課題であり、事業実施には多額の資金需要が見込まれるため、経営は厳しくなるものと考えられます。加えて、昨今の物価高による建設資材の高騰や人件費の増加などから、財源確保のため更新計画の見直し等も必要となっております。また、水道事業に携わる人材の高齢化も進んでおり、人材確保も大きな課題となってきています。

このような状況から、令和6年度末にアセットマネジメント策定を委託しており、今後はその結果を踏まえ、事業の見直しや経営の効率化等の検討を進め、将来に渡る安定供給のため、健全経営に努めてまいります。